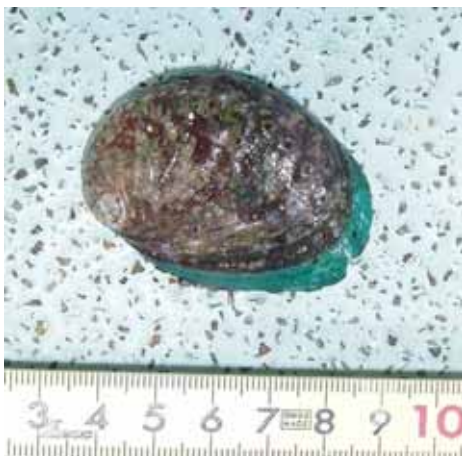


## トコブシについて

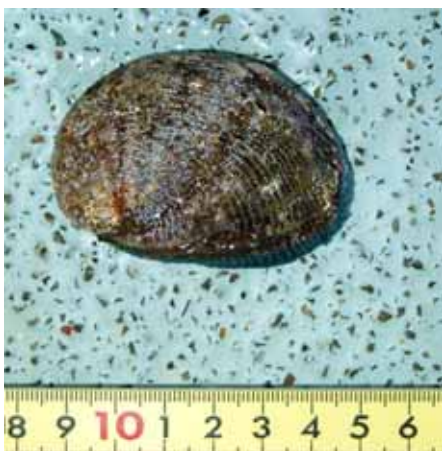
長崎県総合水産試験場

種苗量産技術開発センター 介藻類科

トコブシは、北海道南部以南の日本中に分布するアワビの仲間です。漁業の対象となっている他のアワビ類（クロアワビ、メガイアワビ、マダカアワビ）に比較すると小型で、殻長五～八センチメートル程度で漁獲されます。トコブシにはフクトコブシと呼ばれる殻にシワの多いタイプのももあり亜種として取り扱われていますが、最新の研究では同じ種であると言われています。（図1）



皺のないトコブシ型の個体



皺の多いフクトコブシ型の個体

図1．トコブシ型とフクトコブシ型の比較

生息場所は主に岩礁ですが、他のアワビ類よりも浅い所に分布するため漁協婦人部の皆さんのかっこうの漁獲対象になっている地域もあります。これまではアワビに比べて値段が安いいため増殖対象としてあまり注目されてきませんでした。しかし、安いとは言ってもキロ当たり3,000円程度で取引されており、漁獲のしやすさなどを考えると決してアワビにひけをとらない種類だと言えます。

このため、総合水産試験場では種苗生産技術の開発を4年前から進めています。当初は他のアワビ類と同じ秋に採卵していましたが、秋に生まれた稚貝は冬に死にやすいことが判ったため、採卵期の早期化を試みました。その結果8月下旬から9月上旬に安定した採卵ができるようになりました。また、トコブシは他のアワビ類に比べて高水温下で飼育しなければなりませんが、この高水温下の条件では餌になる人工的に培養した珪藻が早く枯れてしまいます。だからといって長持ちする自然発生の珪藻を使うと稚貝になる率が落ちてしまいます。このため長崎大学と共同で研究を行い、昨年までにトコブシが稚貝になる率が高い珪藻を分離培養することに成功しました（図2）。今年は、この珪藻を混ぜることで問題解決を図ろうとしています。

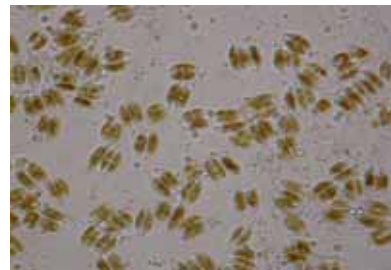


図2．トコブシ幼生の着底誘因に効果のある珪藻 *Amphora* sp.

もうひとつの問題は1mm程度の稚貝の段階で発生する餌不足です。餌が不足すると餌を増やした新しい水槽に移し替えるのですが、この作業を行うとせっかくできた種苗が大量に死ぬことが判りました。そこで昨年は、成長はやや劣りますが餌持ちの良い無節石灰藻と言う植物を使うことで、移し替えによる減耗を防ぐ方法を試みた結果、約90,000個の種苗ができました。

ところでアワビとトコブシは外見ではどこが違うのでしょうか。アワビ類の特徴は、殻の表面にある呼吸をするための穴ですが、大型のアワビが4~5個なのに対してトコブシは6~7個

と数が多くなります。この穴の数が決まるのは2cmぐらいの大きさの頃だそうです。成長は2歳ぐらいまでは他のアワビ類と変わらないのですが、その後大きくなりず3歳でも5cm程度にしかありません。獲りやすいのに成長が遅いせいでしょうか、近年はどこでも漁獲が減って「海の松茸」などと言う人もいるそうですが、はやく大量放流ができるようにして身近な存在に戻したいと考えています。

(担当 大橋智志)